

龍昌寺 御中

ラオス／少数民族の子どもたちのための、
初等教育における指導能力改善事業



2014年3月30日



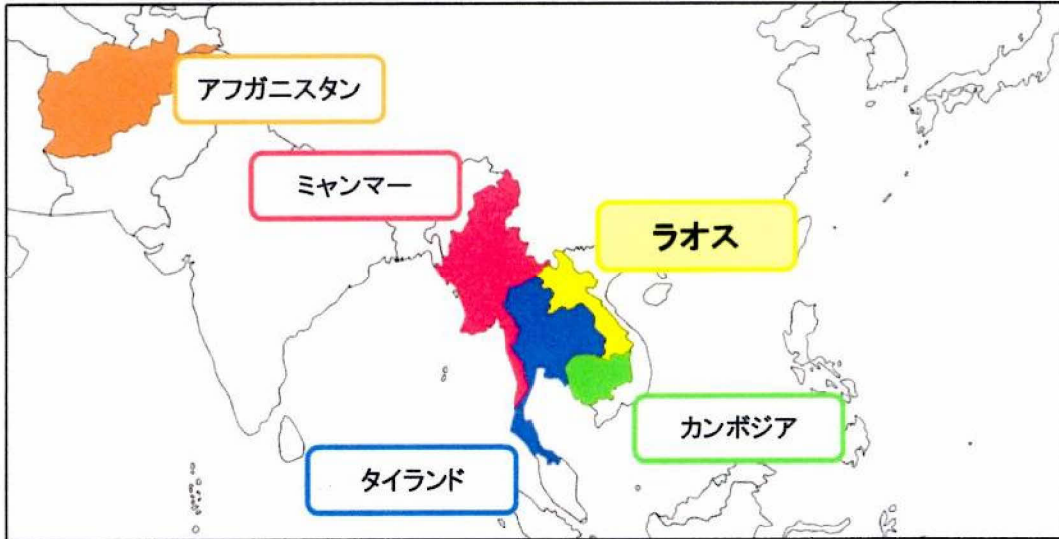
公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。

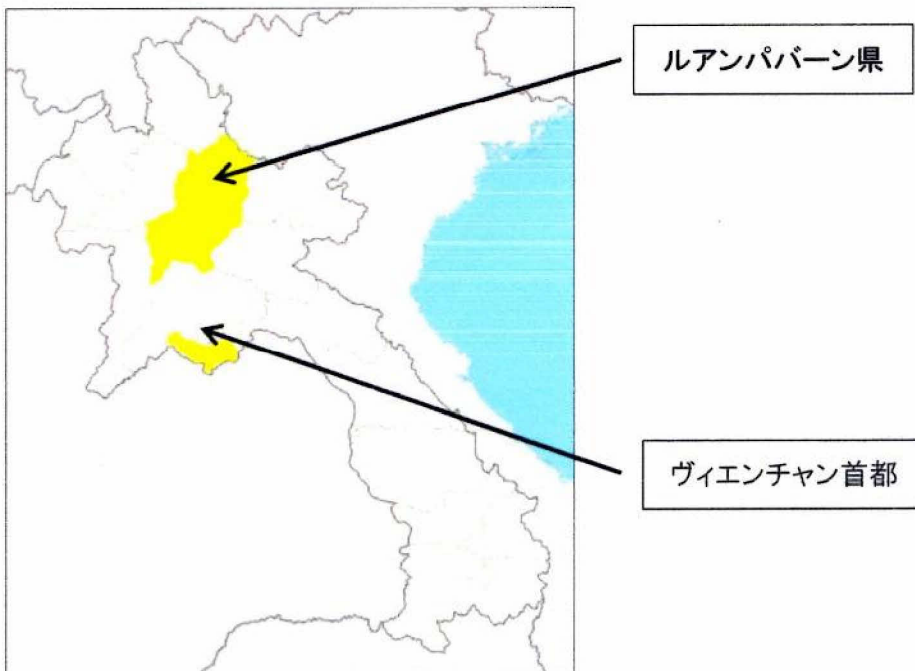
II. 事業内容

1. 事業実施対象地の地図

1-1. シャンティの海外の対象地



1-2. ラオス事業の対象地



1-3. 事業実施対象校の概況：

2014年度の移動図書館活動は、ヴィエンチャン首都とルアンパバーン県で実施しました。ヴィエンチャン首都はラオス国の中心として、またタイとの国境に面していることからラオスで最も発展した地域ですが、郊外では少数民族が暮らすなど首都内でも大きな格差がある地域です。

ルアンパバーン県では、県内12郡のうち一つの郡のヴィエンカム郡で活動を実施しました。対象郡のヴィエンカム郡は、ルアンパバーンの中心地234km離れており、急峻な地形にあり、未整備の道路が多く、雨季には交通が閉ざされてしまうなど、地理的アクセスの障害がいたるところで見られます。

Ⅲ. ご支援頂いた事業の報告

1. 活動の内容

2014年3月から5月はヴィエンチャン首都郊外の2郡4校、9月から12月までは、ルアンパバーン県ヴィエンカム郡の、就学前準備学級（1年生に就学する前の学級）と小学校の教員を対象に、読書推進のための移動図書館活動を行いました。

主な活動は、「①教員のための読書推進研修会、②子どもたちへの読書の機会の提供と研修会に参加した教員のフォローアップ」の2点です。この活動を通じて、就学前・初等教育において、教員が手作りのものを含めた指導教材・学習教材と読書教材を、少数民族の子どもたちのラオス語学習の補助として活用することができるようになることを目指しました。

①読書推進のための研修会

研修会では、まず「なぜ、小学校教育において読書推進活動が必要なのか」を知ることから始めました。中央の教育スポーツ省とルアンパバーン県教育スポーツ局の教育行政官が講師になり、ラオス国の教育の政策について説明しました。普段、国の政策を知る機会がほとんど無いため、今回の研修会は非常に貴重な機会となりました。

また、図書の取扱いに関する知識と技術の習得として、図書館活動の実施方法、蔵書の取扱い方法を学びました。また、少数民族の子どもたちのラオス語の習得を促進するために、絵本を補助教材として活用する手法も紹介されました。

研修会最終日には実践演習として、児童たちの前で絵本の読み聞かせ、素話、言葉を使ったクイズやゲーム、歌などを行い、児童たちの反応からも多くの学びを得ることができました。

なお、ルアンパバーン県ヴィエンカム郡では、小学校15校の22人の教員を対象に、読書推進のための研修会を実施しました。当初の計画では対象は16校としておりましたが、教員の都合により1校の教員が欠席しましたが、欠席した教員は2015年度初頭に実施する同様の研修に参加する計画を立てています。

【研修会内容】

1 日目	<ul style="list-style-type: none">・ラオス国の初等教育政策と、政策に対する読書推進活動の役割について。・読書推進活動の意味と役割について。・図書館運営管理の方法について。・蔵書の登録の仕方。管理の仕方について。
2 日目	<ul style="list-style-type: none">・本の貸出しの仕方。・本の読み聞かせの手法。・参加者による図書館活動の現地演習。・講師による、現地演習の講評。
3 日目	<ul style="list-style-type: none">・参加者による小学校での書館活動の現地演習。・講師による図書館活動。・研修の振り返り、質疑応答。

② ヴィエンカム郡対象小学校での移動図書館活動

研修会に参加した小学校を対象に、教員のフォローアップを兼ねた移動図書館活動を実施しました。実施スケジュールは、1週間のうち4日間、午前に1校、午後に1校を訪問し、1校につき2週間に1回の割合となりましたが、学校側の都合や教員の体調不良等の理由で、調整しながら活動を行いました。結果、訪問回数が少なくフォローアップ不十分な小学校に対しては、2015年に引き続き、教育行政官と共にフォローアップ活動を行う計画を立てています。

移動図書館活動は、自由読書の時間、絵本や紙芝居の読み聞かせのほか、子どもたちの気持ちと体をほぐすための手遊び感覚のゲーム、言葉を使ったクイズ、歌を行いました。自由読書の時間には、友人と一緒に声を出して絵本を読む姿や、何冊も抱え込んで一心不乱に読み続ける子どもの姿が見られました。

絵本の読み聞かせでは、物語の展開に一喜一憂して、子どもたちはおはなしの世界を楽しんでいました。教員も、最初は不慣れであった絵本の読み聞かせも、回数を重ねるごとに上達し、本の管理や扱い方を理解し、図書館活動の実施に自信を持って取り組む様子が見られました。

一方で、この移動図書館活動を通じて、カム族とモン族が中心の学校では、低学年向けの短いお話の絵本や、それぞれの民族の文化に関する本が必要であることが分かりました。

2. 移動図書館活動の受益者数（延べ人数）

2-1. ヴィエンチャン首都／活動期間：2014年1月～3月

児童：577人（女子283人、男子274人）

教員・成人：19人（女性14人、男性5人）

対象郡名	小学校名	児童数			教員数・成人数			図書 貸出数
		女子	男子	計	女性	男性	計	
シクォータ ボン	ドンナソック	65	79	144	4	2	6	133
	ノンケオ	78	60	138	5	1	6	146
マイパック ヌン	コックサー	38	28	66	2	1	3	0
	ドンハイ	102	107	209	3	1	4	167
合 計		283	274	557	14	5	19	446

2-2. ルアンパバーン県ヴィエンカム郡／2014年10月～12月

児童：4,042人（女子1,818人、男子2,224人）

教員・成人：151人（女性75人、男性76人）

小学校名	児童数			教員・成人数			図書 貸出数
	女子	男子	全体	女性	男性	全体	
プーパックペオ第1	121	158	279	0	9	9	78
プーパックペオ第2	97	159	256	0	8	8	64
キウライ	120	207	327	4	19	23	124
ファイクワン	37	39	76	3	0	3	20
ドンクーン	40	10	50	0	5	5	13
ブアンワーン	219	209	428	6	4	10	176
バンフン	33	55	88	0	3	3	62
バンパイ	31	34	65	5	0	5	25
バンセー	358	546	904	21	5	26	191
ヴィエンカム	34	44	78	4	0	4	30
ポンカム	81	56	137	5	7	12	53
サムトン	322	293	615	7	2	9	95
ファイチョ	116	144	260	10	5	15	29
サムスム	154	200	354	6	7	13	30
ヴィエンサイ	55	70	125	4	2	6	32
合計	1,818	2,224	4,042	75	76	151	1,022

3. 子どもの声



学校でたくさんの本を読めるようになって嬉しいです。私はこの「なにをたべてきたの」という本が面白くて好きです。これからもたくさん本を読んでみたいと思います。

私の通う学校にあたたかいご支援してくださった日本の皆さんに感謝しています。皆さんのご健康とご成功を願っています。

掲載絵本：なにをたべてきたの？（佼成出版社）

ラーノイちゃん（8歳、3年生）

4. 活動写真



ヴィエンチャン首都のノンケオ小学校にて。校長先生自ら、子どもたちに絵本を読んで聞かせている様子。



ヴィエンチャン首都のノンケオ小学校にて、木陰での移動図書館活動。子どもたちと一緒に歌をうたって楽しむ時間も設けています。



読書推進のための研修会で、ルアンパバーン県教育スポーツ局職員による講義の様子。



読書推進のための研修会にて、蔵書の登録方法を学んでいる様子。



読書推進のための研修会にて、子どもたちの前で初めての絵本の読み聞かせをする教員の様子。



キウライ小学校にて。移動図書館活動の自由読書時間にそれぞれ絵本を楽しむ子どもたち。



ヴィエンサイ小学校にて。シャンティの職員と一緒に、体操をしている様子。



ブアンワン小学校にて。研修を受けた校長先生による絵本の読み聞かせの様子



フエイクアン小学校にて。本の管理方法について指導をするシャンティの職員(手前)



サムスム小学校にて。移動図書館活動中、「私の好きな絵本はこれです」と見せてくれました。(掲載本:シャンティ ラオス事務所 2013 年度出版「欲ばりな友だち」)